

こまつな

「こまつな」には、「こまつな」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」または「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。(非結球あぶらな科葉菜類の項目 参照)

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普	通	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		は種	収穫										
白	斑	病											
萎	黄	病											
白	さ	び											
根	こ	ぶ											
リ	ゾ	ク	ト	ニ	ア								
ア	ブ	ラ	ム	シ	類								
コ			ナ		ガ								
ハ	イ	マ	ダ	ラ	ノ	メ	イ	ガ					
ネ	キ	リ	ム	シ	類								
ヨ	ト	ウ	ム	シ	類								
ア		オ		ム	シ								
キ	ス	ジ	ノ	ミ	ハ	ム	シ						
ケ					ラ								

白斑病

留意事項

- 1 気温が低く、湿潤な条件が続く春期や秋期で発生しやすい。
- 2 QoI剤<< 1 1 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日/2回】

萎黄病

留意事項

- 1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。

- 2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
- 3 根傷みによって発生が助長される。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 下記の薬剤で土壤消毒を行う。
(XⅢ土壤消毒 2土壤病虫害等を対象とした薬剤による土壤消毒 (4) 参照)
・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>
【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壤と混和する は種10日前/1回】
- 4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

白さび病

留意事項

- 1 早春や晩秋に発生が多い。
- 2 降雨が多く、湿度が高い時期に発生が多い。
- 3 QoI剤< 1 1 >は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 下記の薬剤を施用する。
・ [ユニフォーム粒剤](#) < 4 > << 1 1 >> 【9kg/10a 全面土壤混和 は種前/1回】
・ [リドミル粒剤2](#) < 4 > 【10kg/10a 全面土壤混和 は種前 (収穫21日前) /1回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日/2回】

根こぶ病

留意事項

- 1 春～秋に発生するが、夏の高温期にはやや少ない。
- 2 酸性土壤で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壤酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壤消毒を行う。

(XⅢ土壤消毒 2土壤病害虫等を対象とした薬剤による土壤消毒(4) 参照)

- ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>

【20~30kg/10a 所定量を均一に散布して土壤と混和する は種10日前/1回】

5 は種前に下記の薬剤を施用する。

- ・ [フロンサイド粉剤](#) <29> 【30kg/10a 全面土壤混和 は種前/1回】

6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

リゾクトニア病

留意事項

- 1 苗立ち枯れ症状は高温期に多発する。尻腐れ症状、葉腐れ症状は低温期に収穫する場合に発生が多い。
- 2 土壤伝染する。
- 3 高温多湿条件で発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 は種前に下記の薬剤を施用する。

- ・ [フロンサイド粉剤](#) <29>

【立枯病(リゾクトニア菌) 30kg/10a 全面土壤混和 は種前/1回】

5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [リゾレックス水和剤](#) <14> 【1000倍 14日/2回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 少雨のときに多発しやすい。

防除方法

1 ベたがけ資材の利用により、被害軽減に努める。

2 は種前~は種時に下記の薬剤を施用する。

- ・ [アクタラ粒剤5](#) <4A> 【6kg/10a 作条混和 は種時/1回】

- ・ [ジェイエース粒剤](#) <1B> 【3~6kg/10a 作条散布後土壤混和 は種前/1回】

- ・ [スミフェート粒剤](#) <1B> 【3~6kg/10a 作条散布後土壤混和 は種前/1回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。

- ・ [ダントツ水溶剤](#) <4A> 【2000~4000倍 3日/3回】

- ・ [ランネート45DF](#) 劇 <1A> 【1000倍 14日/3回】

コナガ

留意事項

- 1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。
- 2 春～初夏、秋の発生が多い。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) < 6 > 【2000倍 3日/2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【2000倍 3日/1回】
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) < UN > 【1000倍 前日/2回】
 - ・ BT剤 < 1 1 A > (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ハイマダラノメイガ

留意事項

- 1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。
- 2 ディアナSC、ラディアントSCに含まれる成分スピネトラムの総使用回数は、2回以内。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [ラディアントSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】

ネキリムシ類

留意事項

- 1 根の株元をかみ切り、株はそこから折れて枯死する。

防除方法

- 1 ほ場の中および周辺の除草を徹底する。
- 2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) < 1 B >
【6kg/10a 全面土壌混和 は種時又は定植時/1回】または
【6kg/10a 土壌表面散布 出芽時/1回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) <5> 【ハスモンヨトウ・ヨトウムシ 2500～5000倍 前日／2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【ハスモンヨトウ 1000倍 前日／2回】
 - ・ BT剤 <11A> (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

アオムシ

留意事項

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【2000倍 3日／1回】
 - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日／2回】
 - ・ BT剤 <11A> (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

キスジノミハムシ

留意事項

- 1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

防除方法

- 1 シルバーマルチを利用する。
- 2 は種時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1B> 【6kg／10a 全面土壌混和 は種時／1回】
- 3 発生を認めたら「非結球あぶらな科葉菜類」に登録のある薬剤を散布する。

ケラ

防除方法

1 は種時に下記の薬剤を施用する。

- ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1 B> 【6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】